

Daily comment

ドル実効相場は昨年11月以来のレジスタンスを上方ブレイク!?

当面のドル相場の方向性を占う上で注目された FOMC は、計算された曖昧さにより利下げサイクル休止を巡る市場の解釈を二分した。

しかし、次回6月 FOMC まで2ヶ月弱の期間が空く状況下では、(明確な方向性よりも) どちらにも解釈のできる曖昧さが奏功する場合もあり、この間の信用市場の改善状況やマクロ指標の結果によって市場に利下げサイクル終焉の時期を無理なく織り込ませる“出口戦略”と読むことができよう。

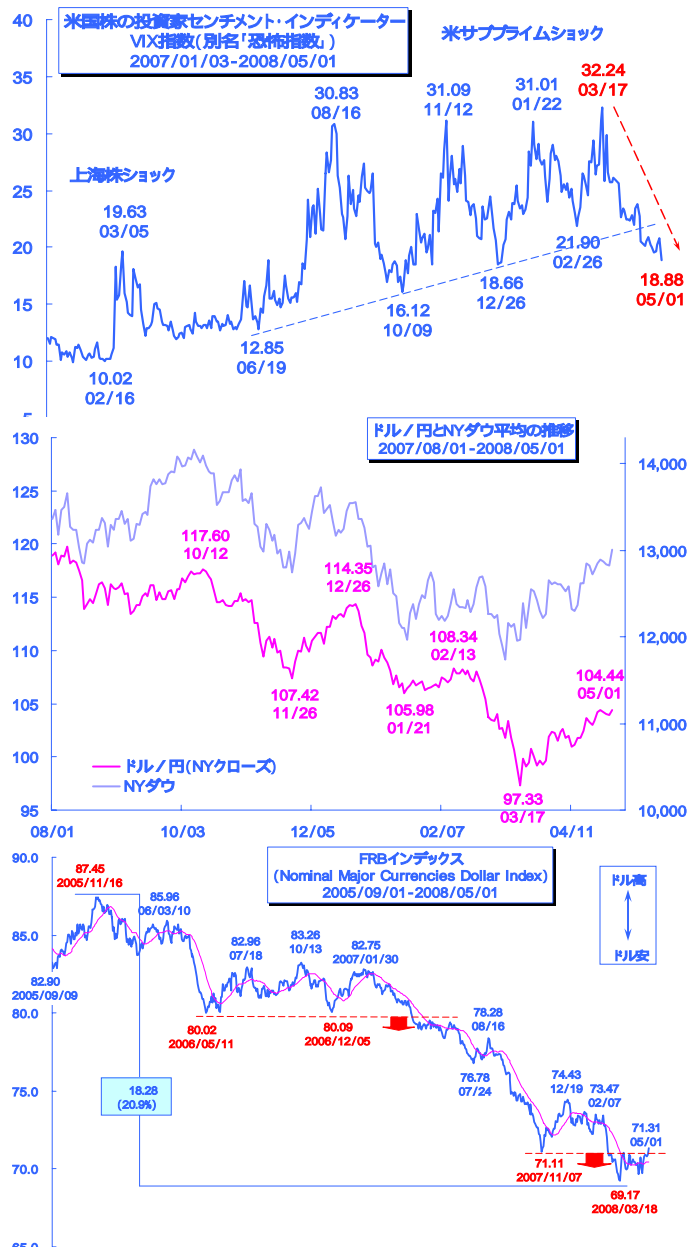
カギを握るのは投資家センチメントであり、FOMC から一夜明けた昨日の VIX 指数は安定圏入りを示唆する20をブレイクして18.88まで好転している。米株式市場では、NYダウが前日比+189.87ドルと4日ぶりの大幅反発となり、ダウと連動性の高いドル/円も東京終盤の安値103.54円から104.60円まで切り返し、再び105円台を射程圏に捉えている。

ここで注目されるのはドルの総合的な実力を示す FRB 算出の実効為替相場であり、このFRB インデックスは71.31へ続伸し、今年2月末以来レジスタンスとなってきた71.11を明確に上抜けている。71.11は昨年11月のドル安水準であり、バーナンキFRB議長が2月末の半期・議会証言でドル安志向を示唆したことで同水準が破られ、一段のドル安が促される格好となっていた重要なレベルである。

それ故に同水準を再び上抜いたことはテクニカル的な観点からだけでなく、ファンダメンタルズからも重要な意味合いを持つといえよう。

しかも、そのタイミングがバーナンキ議長率いるFOMCのステートメントを受けた流れであるならば、なおさらのことである。

4月のFOMC声明は曖昧さを残す歯切れの悪いものであったが、“成長の下振れリスク”に言及しなかった“真意”を読み直す動きが強まっていると解釈する必要がある。



- 半期・議会証言(02/27-28)からの抜粋**
- ・ 金融市場は引き続きかなりの緊張状態にある
  - ・ 成長支援ならびに下方リスクに対する適切な保険を提供するため必要に応じて時期を逃さず行動する (追加利下げを示唆)
  - ・ 世界の主要中央銀行が金融政策で協調することは予期していない
  - ・ 柔軟な為替制度で各国の独立した金融政策が可能になっている
  - ・ これは柔軟な為替制度による利益の1つだ **ドル安志向**

当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。

Forex Watch Kojiro Mori

こうした状況下、昨日のユーロ/ドルは1.5500ドル処の節目が破られ一時1.5430ドルまで続落幅を拡大している。

今週の『森レポート(全12頁)』P.9では、「1.5503ドル処が破られる場合は1.5456ドル処や1.5320ドル処に向けた続落リスクを想定する必要がでてくる」と述べたが、その第1目標を達成したことになる。

昨年12月20日の安値1.4310ドルを起点とする小勢のエリオット波動分析では、1.6020ドル(04/22)が5波のトップとなり、現状は修正のa波に位置するものと観測される。

a波の下げは、全上昇幅の38.2~61.8%、あるいは4波動のボトムが目安となってくる。

これをユーロ/ドルに当てはめると、全上昇幅の38.2% retraceが1.5367ドル処、そして4波のボトムが1.5341ドル(03/24)であり、a波の終了後にはリバウンドのb波が続くことになる。

ここで注目されるのはユーロ/円の動向であり、昨日は一時160.61円まで下落する場面がみられたが、チャート上に記したファンラインの160.60円処で見事にサポートされている。

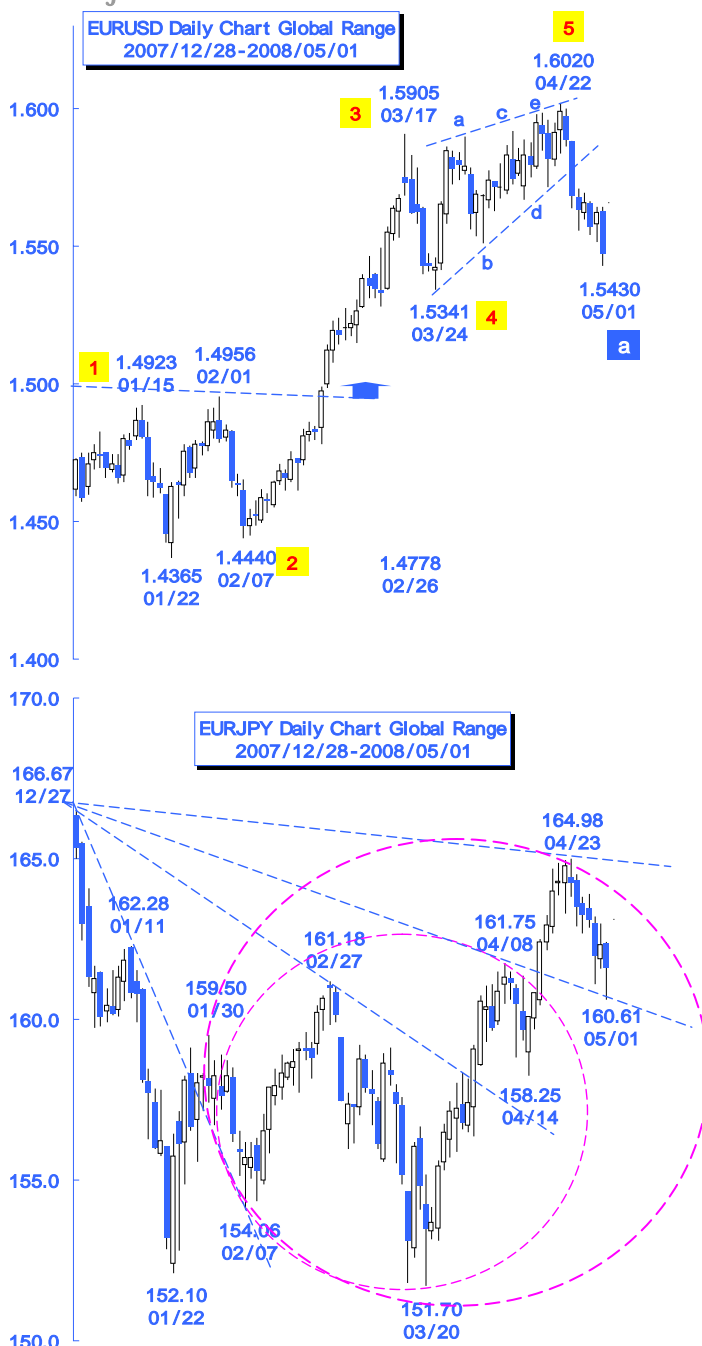
166.67円(12/27)と161.75円(04/08)を結ぶファンラインは1日当たり約0.0674円切り下がっており、本日は160.54円処に位置する計算となる。ここが破られない限り、円弧に向けた反発が想定されるが、仮に破られる場合はもう一段下のファンラインに向けた続落リスクが高まるため、ドル/円の上値圧迫要因にもなってくる。

ドル/円は105円の節目が近くて遠い存在となっているが、今晚の米4月雇用統計で新境地を開くことができるかどうか、クロス円の動向にも掛かっているといえよう。

お知らせ:

連休中は事務所移転の作業によりレポートは休刊とさせていただきます。次回発行は5月7日(水)を予定しておりますのでよろしくお願い致します。

(5月2日 11:10記)



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における森好治郎個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。